

保育園との協働による保育者養成に向けて

—— 2016年度下関市保育者養成連絡協議会に
おける模擬保育と模擬面接の試み ——

桑 畑 洋一郎

1.はじめに

本稿は、2016年度下関市保育者養成連絡協議会において実施された、保育園と養成校との協働による保育者養成の試みについて備忘録的に書き留めることで、今後の更なる展開を図るための基礎資料とすることを目的とするものである。

下関市保育者養成連絡協議会は、2013年度に立ち上がった組織体であり、下関短期大学・東亜大学・梅光学院大学の3養成校と、下関市保育連盟によって構成されるものである。協議会の目的は、主に実習とキャリア支援の場面における養成校と保育園との思いを共有しあい、より質の高い保育者の養成を潤滑に進めることと位置づけられている。

こうした目的の元、これまで、実習の際に学生と養成校に対して生じた保育園側の要望の提示や、各養成校で実習の際に用いられている評価票や日誌などの様式の点検と共有化が行われてきた。

こうして、養成校側と保育園側との意識の共有が図られてきたが、そこに学生が介在する余地は少なかった。そこで梅光学院大学の三澤恵講師と筆者との協議の上、2016年度に始められた取組が、本稿で書き留める模擬保育と模擬面接である。

2016年度の保育者養成連絡協議会は、梅光学院大学を幹事校として（担当者は筆者と三澤恵講師）、8月5日に開催された。全体のスケジュールは後掲するとして、中心を占めた模擬保育と模擬面接について説明しておきたい。

まずは模擬保育について説明する。これは、保育士資格取得を考えており卒業が近づいてきている学生——本学であれば⁽¹⁾3年生と4年生——に、各保育園の先生の前で保育実技の披露をしてもらい、保育スキルがどの程度学生に修得されているか、各園の先生に認識してもらうものである。保育士資格を取得する予定の学生が対象のため、保育実習を経験済みの／これから経験する学生ばかりであり、保育園で実技を披露する機会はどこかで経験してきている／する予定がある。ただしこの試みは、保育者を目指す学生個々が修得した力を保育園に認識してもらうことを主目的とはしておらず、むしろ保育者を目指す学生が総体としてどのような力を修得しているか——したがって養成校が学生たちにどのような力を修得してほしいと考えているか——を認識してもらうことにある。

続いて模擬面接について説明をする。これも同様に、保育士資格取得を考えており卒業が近づ

いている学生に対する集団面接を、各保育園の先生方が面接官役となっていくものである。これも模擬保育と同様で、個々の学生の保育観などを見てもらうことはそれほど重視しておらず、学生が総体として保育に対する意識をどのように持っているのかを認識してもらい、保育者養成校としての保育観のありようを認識してもらうことを主目的としている。

以上のような目的に基づいた取組であるが、他方で、学生に対しても、保育園の先生方が実技の何を見ているのか、あるいはどのような保育観を持っているのか——面接に臨むことで面接官の意識が投影的に理解されることもあるだろう——といったことを、実習以外の場でうかがい知る機会を提供したいという思惑もあった。

また、どちらの取組にも共通しているもう1つの目的として、教員のフィルターを通さないリアルな学生の姿を保育園に見てもらいたいということも挙げられる。

2.取組の実際

以上の目的の元、模擬保育と模擬面接を実施した。スケジュールは以下の通りとなっている。

表1：スケジュール

面接パート		保育パート	
13：45	面接1と講評 (A～Gグループ→先生3人×5室)	13：45	保育1と講評 (H～Nグループ→先生5人×5室)
14：15	移動		
14：20	面接2と講評 (H～Nグループ→先生3人×5室)	14：20	保育2と講評 (A～Gグループ→先生5人×5室)
14：50	学生の振り返り／連絡協議会での意見交換		

学生を14グループに分け(人数は3人から5人)、先に模擬保育を見てもらうグループと先に模擬面接を見てもらうグループとでローテーションをする形となっている。

以下に模擬保育と模擬面接それぞれの様子を撮影した写真を掲載したい。

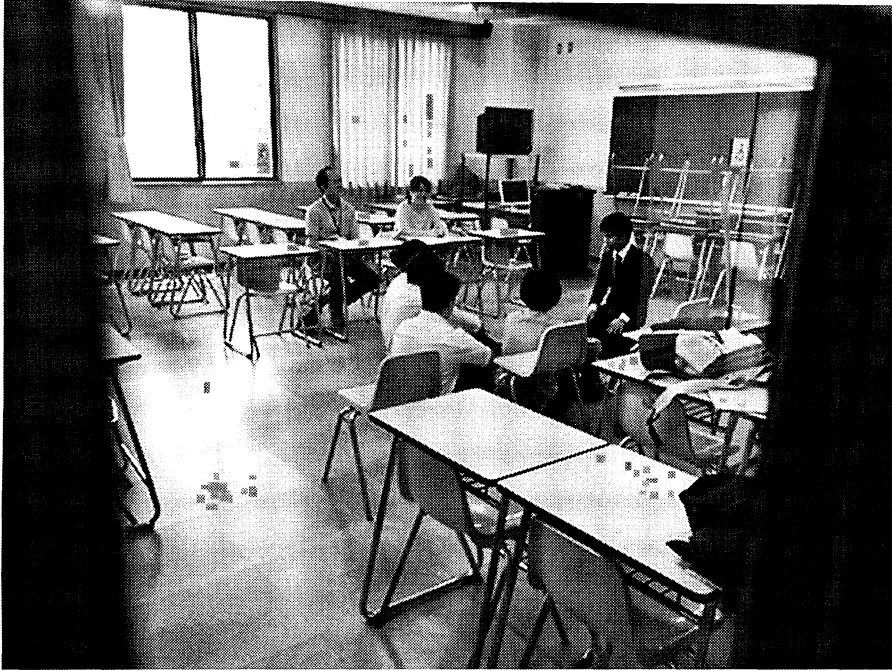


図1：模擬保育の様子（素話をしているところ）



図2：模擬保育の様子（紙芝居を読んでいるところ）

グループを作って模擬保育に臨むことにしているものの、実技の披露は個人で行うこととした。したがって、披露をしていない学生は子ども役で参加している。机に並んで座り披露の様子を見ているのが保育園の先生と梅光学院大学以外の養成校の教員である。

さて次は模擬面接の様子である。形式は、既に述べたとおりグループ面接形式とした。

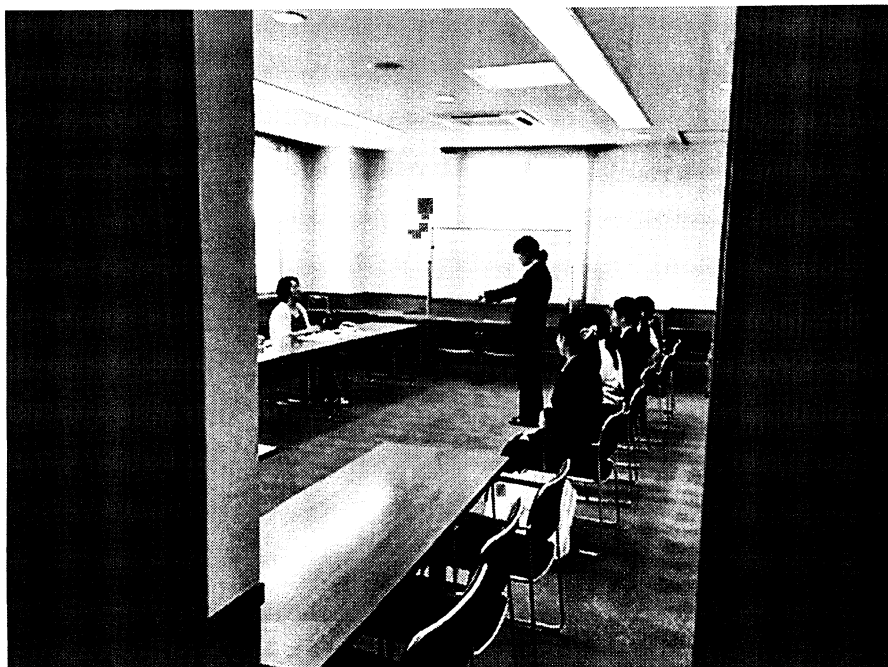


図3：模擬面接の様子

3.取組の成果

さて、最後に取組の成果を述べたい。

保育園側からのコメントとしては、「保育士資格取得を目指す学生のリアルな姿や思いを知れて大変いい機会だった」「想定していたよりもしっかりした学生ばかりだった」といったものが得られた。学生に対して失望感を持ったコメントは全くなかった。

学生からのコメントとしては、「実際に先生方に見てもらいコメントをもらえたので刺激になった」「実習や就職活動への励みが得られた」「同級生の姿を見ることができて、勉強になった」といったものがあり、やはりこれも意にそぐわない取組であったとのコメントは皆無であった。

これだけで今回の取組に成果があったと結論付けることはできないだろうが、養成校と保育園の二者関係に参画し、養成される側である学生も含めた、より質の高い保育士養成を進めていく上での新たな道を拓くことができたのではないかと考えている。

注

- (1) 他の2養成校の学生にも参加してもらおう予定だったが、学年暦の関係上梅光学院大学の学生のみ参加となった。

第2部

第12回梅光子ども未来会議報告

第12回 梅光子ども未来会議

2016年11月19日 9:00～

9:00～ 学部長挨拶

司会：桑畑洋一郎

9:05～10:05 第1部 4年生卒業論文中間発表

発表者：東 波月「幼稚園・保育所におけるママ友カースト——元保育者へのインタビューから」

古賀 茜「ボランティア活動が子どもに与える影響——青少年ボランティア体験活動の記録の分析より」

佐々木 萌「特別支援学級における支援の在り方について——免許状の有無に注目して」

吉田 美紀「子どもの野外体験活動が及ぼす生活への影響」

10:05～ —休憩（10分）—

10:15～11:40 第2部 ゼミ活動報告と紹介（1ゼミ7分～15分）

- (1) 赤堀ゼミ
- (2) 黒田ゼミ
- (3) 桑畑ゼミ
- (4) 新川ゼミ
- (5) 田中ゼミ
- (6) 原田ゼミ
- (7) 広瀬ゼミ
- (8) 山田ゼミ
- (9) 吉島ゼミ
- (10) 松永ゼミ
- (11) 三澤ゼミ

卒業論文中間発表者表彰

11:45～12:10 第3部 第12回梅光子ども未来会議 総会
開会

司会：桑畑洋一郎

会長挨拶 赤堀方哉学部長

議長推薦 赤堀方哉学部長

議長挨拶 赤堀方哉学部長

報告事項

1. 2016年度子ども未来会議の活動報告

- (1) 2015.11.13～2016.11.19の活動
- (2) NPO法人下関子ども・子育てネット活動支援
- (3) 「子ども未来学研究」第10号の発行
- (4) 2016年11月19日子ども未来会議開催
- (5) その他

2. 会計報告

2015.11.14～2016.11.18の決算報告

収入	繰越	595,945
	利子	48
	学生会員（1年生88名）	176,000
	教員会員（昨年度）	75,000
<hr/>		
	収入 計	846,993
支出	子ども未来学研究10号	162,000
	振込手数料	540
	第12回子ども未来会議準備費用	
	第12回子ども未来会議発表者表彰経費	12,000
<hr/>		
	支出 計	174,540
残金	収入 - 支出	672,453

審議事項

1. 2017年度子ども未来会議の活動計画

- (1) NPO法人下関子ども・子育てネットの活動支援
- (2) 「子ども未来学研究」第11号の発行
- (3) 2017.11.25大会・総会の開催
- (4) その他

2. 2017年度 梅光子ども未来会議役員および理事選出

2016年度理事会からの推薦候補

会長： 赤堀方哉（学部長）

副会長： 吉島豊録

事務局長：桑畑洋一郎

未来学研究：広瀬綾子、会計：横山修

監事：黒田敏夫

理事：赤堀方哉、李光赫、黒田敏夫、桑畑洋一郎、新川由美子、田中俊明、西村眞、原田博、
広瀬綾子、松永章、三澤恵、山田洋平、山本一誠、横山修、吉島豊録

3. 来年度の子ども未来会議の日程（案）

2017年11月25日（土）午前9時～12時40分